

# ミサゴ便り

平成 15 年 7 月 15 日発行

弓削野鳥の会編集発行



## ヤマセミに出会えて

上 森 エ ミ コ

梅雨空がひと休みの 6 月 28 日

(土) の朝、平山さんから「深

坂池の電線に、ヤマセミが止ま

っている。」との電話が入りました。急いで自転車を走らせていくと、ちょうど藪の中に隠れていましたが、暫くして餌を取るために電線に止まりました。白黒の愛らしい姿を初めて見ることができ、感激しました。体の大きさはキジバトとイソヒヨドリの間ぐらいで、腹部は白っぽく、胸の薄茶色のような羽は、赤ちゃんのよだれ掛けのようでした。冠羽を逆立て、つぶらな目もとがとても可愛く、暫く見とれていました。



何度か場所を変えながら、獲物を狙って急降下を繰り返しましたが、

なかなか獲物にありつくことはできませんでした。また、電線に止まっては、ペリットを吐いたり糞も出していたので、ちゃんと食事はとっていたのでしょう。この辺で観察できたのは珍しいことです。ヤマセミは留鳥で溪流を好み、雨で川が濁ると水の澄んだところを探して移動し、つがいで占める縄張りは4キロ前後とか、巣は川岸



の崖に穴を掘って作ると本にありました。バードウォッチングに参加させてもらってもう2年あまりになります。おかげさまで今まで無頓着でいた野鳥にも関心が持てるよ

うになりました。近頃では家の近くでイソヒヨドリが巣立ちも近いのか、親鳥がギーギーと日頃の鳴き声と違う激しい動作で、雛鳥の巣立ちを促し、バタバタと追いまわしている様を見たり、また、ホウジロの親鳥が餌を咥えたまま、巣の中の一羽の雛を呼び出している様子等を見ると、人間の気持ちと重なって胸が痛む思いがしました。お陰でバードウォッチングを始めて皆さんと一緒に町内町外に車で観察に出かけるようになり、70歳の手習いではないですが、色々と発見もあり、また自然を楽しむことができるようになりました。これからも元気でいられる限り、参加させていただきたいと思いま

すのでよろしくお願ひします。

【※ヤマセミ：九州以北の山地の溪流にすみ、カワセミに似た習性。雌は首の茶色味がないが、飛ぶと翼の下に茶色の部分がある。キャラッなどと大きな声で鳴く。ハト大で白黒模様。】

ホ ト ト ギ ス

平 山 和 昭

こえはすれども姿を見せぬ義理を欠いたかほととぎす

初夏になれば早朝から、テッペンカケタカ、トウキョウトツキョキョカキョク、包丁欠ケタカ、と、山野や庭に啼くホトトギス。昔から様々に「聞き成し」をされているその鳴き声は、けたたましくもあるが、童謡にもあるように季節感もある。ホトトギスがウグイス



に託卵することは知られているが、いったい誰がその事実を最初に発見したのだろうか？声は身近に聞けるし姿もそんなに小さくはないのに、実際には、

その姿を見るのは容易いことではない。行動がウグイスに似ており、たえず啼きながら木陰から木陰へと移動するし、声が大きく、かつ響くので、方向を惑わされるからだろう。もっとも啼くホトトギスの移動は、藪から藪へではなく、梢から梢へと、柄に合ったスケールではあるが。通常小鳥がさえざるときは、縄張り宣言、あるいは

巣ごもりをしている雌をまもっているのだと聞くが、ある伝によると、ホトトギスは託卵した巣のみでなく、そうでないウグイス、その他の小鳥の巣や卵、雛をも守るために警戒飛行しているのだ、とある。世の中、やらずぶったくりばかりではない、ということか。

ホトトギスの姿、飛び方は小型の猛禽類、ハヤブサ、チョウゲンボウによく似ており、巣を狙うイタチや蛇、フクロウに警戒感を抱か

せずにはおかないだろう。逆に言えば、その飛び方をみて彼の所在を知る、ということもできる。弓削では三山へのつづら折りになって見通しのよい場所とかで、それが観察できる。一方、雌は現実路



線で藪から藪へと飛び回り、ウグイスの巣を探し回るのだろう。雛を育てる時季というものがあるから、かなりあせった行動にはちがいない。人間にとっては、ただでさえみつけにくい藪のウグイスの巣だが、その道のプロなるホトトギスにとっては、さしたる苦労ではないのかもしれぬが。鳥は卵からかえったとき、一番最初に目の前を横切ったものを親だと認識する習性があり、それを「すり込み現象」と名付けたのは、オーストリアの動物学者コンラート・ロー



レンツ（動物行動学入門・「ソロモンの指環」早川書房刊がおもしろい）だが、親ウグイスが、生んだ覚えのない卵を（といっても、色はとてもよく似ていて茶色のオリーブの実型。21ミリ×15ミリ。ウグイスのは17ミリ×13ミリ）疑いもなく暖め、孵ったホトトギスのでっかい雛が、一番最初に目前をよぎった鶯を自分の親だと信じて存分に甘え育てられ、巣立った後にいつの日か、自分は実はウグイスではなかったとさと、秋には南へ帰るとするのは、不思議



議というか、なかなか腑に落ちない事ではある。人間の世界なら、さしずめ義理と人情の愁嘆場が演じられるところだろう。毎年、弓削に渡って

くるホトトギスは何羽くらいいるのだろう。まさか数羽ということはないから、各地区に数羽だとしても、ぐるり一周すれば、数十から百羽、あるいはもっといるかもしれないが、一度手分けして概数を勘定してみるのもいいかもしれない。ひとたび切ない親子の別れをした彼らは、いったい何をしに、また弓削に帰ってくるのだろう。

「託卵するためさ」なんて、実も蓋もない本当のことではなく、夢のある物語をつむいでみたい気がする。

## 頭の白いホウジロ出現

## 佐島（江尻）



突然変異か頭の白いホウジロが佐島の江尻の集落付近で観察できました。ホウジロ特有の木の梢など、目立つところで囀っているのを探すのはごく簡単です。留鳥でもあり

当分の間、私たちを楽しませてくれそうです。去年は黄色メジロ、今年には頭の白いホウジロと、鳥の世界も染色体の異変か、環境の変化か、人の世も異変続きで何かと忙しいことですネ。

## ウシカエルの交尾

## 佐島竹ノ浦池

恋の季節でもある6月の初旬、佐島竹ノ浦池の水際でなにやらビシヤビシヤと音がするので、何かと思い双眼鏡を覗くと、なんと30cm

は軽くありそうなウシカエル（♂♀）が抱き合っているではありませんか、しばらくすると、くるくる回転しながら池の真ん中まで行



きました。10分ほどの壮絶な交尾でした。終わったあとは、もう用はないとばかりに何食わぬ顔で別々の方向に離れていきました。（淋しいですね人間の世界も一緒かな？）

## 世界最大のキツツキ絶滅

## メキシコハシジロキツツキ

テイオウキツツキとも呼ばれるこの鳥は、全長約60cmに達する

大型のキツツキで頭

白の体の特徴。かつ

エラマドレ山脈一帯

が、繁殖に必要な大

が続いたために個体

に確認されたのを最



部の赤い羽根や黒と

ではメキシコの西シ

に広く分布していた

木がある森林の伐採

数が急減。1956年

後に、1996年まで

未確認の目撃例が数回あるだけとなっていた。鳥たちにとっても住みにくい世の中になりました。(7月13日愛媛新聞より)

### 7・8・9月の探鳥会のご案内

※ 7月27日(日) (午前9:00 公民館集合) 引野方面

※ 8月24日(日) (午前9:00 公民館集合) 三山方面

※ 9月28日(日) (午前9:00 公民館集合) 狩尾・大谷方面



### 【自然観察記録等の投稿のお願い】

(自然観察に関する原稿、たとえば、鳥、植物、昆虫、魚、海藻等見たままの感想等お気軽にお寄せください。) 連絡先: 下弓削315、弓削野鳥の会事務局 (村上尚) Tel/fax 77-3607までお願いします。HP アドレス (<http://www2.dokidoki.ne.jp/popo109/index.html>)